

和し 鍛え 学ぶ

14歳、15歳の夢

長く教員をやっているとたくさんの生徒との出会いがあります。最初に教えた子たちはもう40半ばです。いいお父さん、お母さんの姿で再会することもあれば、飲みながら昔話をして笑い転げたり、仕事の近況や苦労話を聞いたりすることもあります。

「先生たちも大変だね。あの時、あんなことをしてくれていたということに生徒の時は気づかなかった。自分ならとてもやれんわ！」と言ってくれることもあります。みんな立派な社会人です。



雨の朝 優しい心で傘を巻く

中学校2年生で行っている職場体験学習。多くの中学校で行うようになって30年以上経ちます。生徒は「将来看護師になりたいから」「トリマーになりたいから」という理由で体験先を選ぶこともあります、「普段利用するお店の裏側を見てみたい」という気持ちで選ぶこともあります。また、3年生になると、進路相談で「将来の夢は○○だから、○○科のある大学に行って勉強したい。そのため○○高校に進学したい」と明確なビジョンを語る生徒もいます。立派です。

大人になった教え子と再会すると、当時語っていたとおりの仕事に就いている卒業生が意外に多いことに驚きます。もちろん卒業後、または大学に入ってから具体的な夢が固まったり途中で変わったりする子もいます。長い人生ですから夢も環境も変わることがあります。ですが、14、15歳の頃に思い描いていた夢は、けっこうそのまま将来の自分につながることが多いように思います。

生徒の皆さん、真剣に夢を探しながら、一步一步踏みしめるように自分を高めてください。自分だけの、一度きりの人生です。

学びは楽しい

校内を回っていて嬉しくなる瞬間。それは学びに向かっている生徒の姿や目、表情を見た時です。「勉強は好きですか？」^{こうてい}という問いに「好き」と無条件に肯定する生徒はどれくらいいるでしょうか。即座に「嫌い」と答える子もいるでしょう。でも、本当に嫌いですか？

自分が「もっと知りたい、ここを勉強したい」という気持ちで学びに向かっている時に「楽しい！」「もっと学びたい」と感じることはありますか。義務教育は中学校で終わりです。その先には自分で自由に選択できる学びの機会が広がっています。そのために基礎を作り、いろいろなことを幅広く知るのが義務教育です。「世の中にはこんな面白いことがあるんだ」「この分野を将来深めたい」、目の前にいる生徒の心に種をまく授業。そんな授業を目指したいものです。



静電気発生装置を使った理科の授業、株式の仕組みから世の中の動きを知る公民の授業、日本がどのようにして近代に向かっていったかを学ぶ歴史の授業。生徒の学ぶ姿は、目の真剣さや輝き、前のめりの姿勢、体の向きなどに表れます。どうですか？学ぶことは楽しくありませんか。